

R8 川北中学校学校研究

(1) 学校研究主題

課題を自分事として捉え、考えを言葉にする生徒の育成
—「考えたくなる」学びと「語りたくなる」学びを通して—

(2) 主題設定の理由

近年、社会の急速な変化や AI の発達により、多くの情報に容易にアクセスできる時代となっている。そのような社会において求められるのは、与えられた知識を受け取るだけでなく、自ら問いをもち、多様な考えに触れながら思考を深め、自分なりの納得解を導く力であると考え。学校教育においても、主体的・対話的で深い学びの実現を通して、生徒が課題に主体的に向き合い、他者との関わりの中で考えを深めていく学びが求められている。

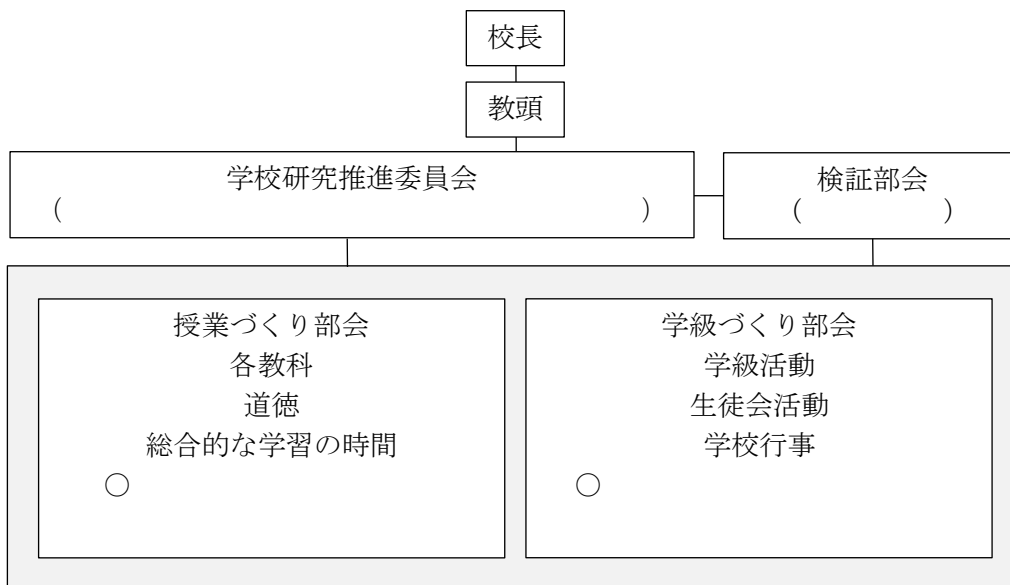
本校ではこれまで、「生徒が主体的に学ぶ授業」を目指し、授業改善に取り組んできた。その重点として、課題を自分事として捉える工夫を共通実践としてきた。その工夫により、生徒が課題について考えを交流したり、自分の考えを表現したりする姿が見られるようになってきた。しかしながら、課題が自分事として十分に捉えられず、学習への見通しをもてない場面や、考えを言葉にして表現することに難しさを感じる生徒の姿も見られた。また、対話の場面においても、意見の交流にとどまり、考えを深める対話へとつながりにくい場面が見られることが課題として残された。

このような課題を踏まえると、生徒が主体的に思考し自分の考えを自分の言葉で表現するためには、

- ・生徒が考え続けたくなるような課題設定
- ・互いの考えを聴き合いながら思考を深める対話

を充実させることが重要であると考えた。そこで本研究では、生徒が考えたくなる課題や協働の後でさらに深めたいような設定と、互いの考えを聴き合いながら思考を深める対話を充実させる授業づくりを通して、自分の考えを自分の言葉で表現できる姿を目指すこととし、本主題を設定した。

(3) 校内組織



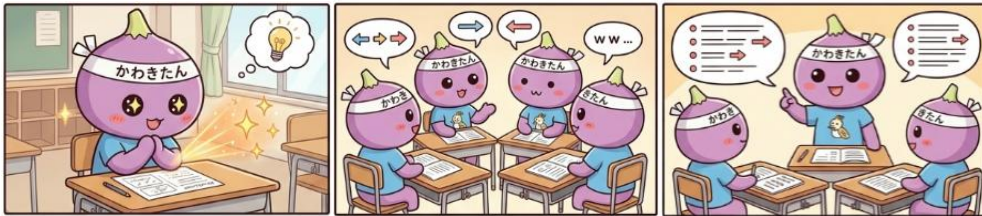
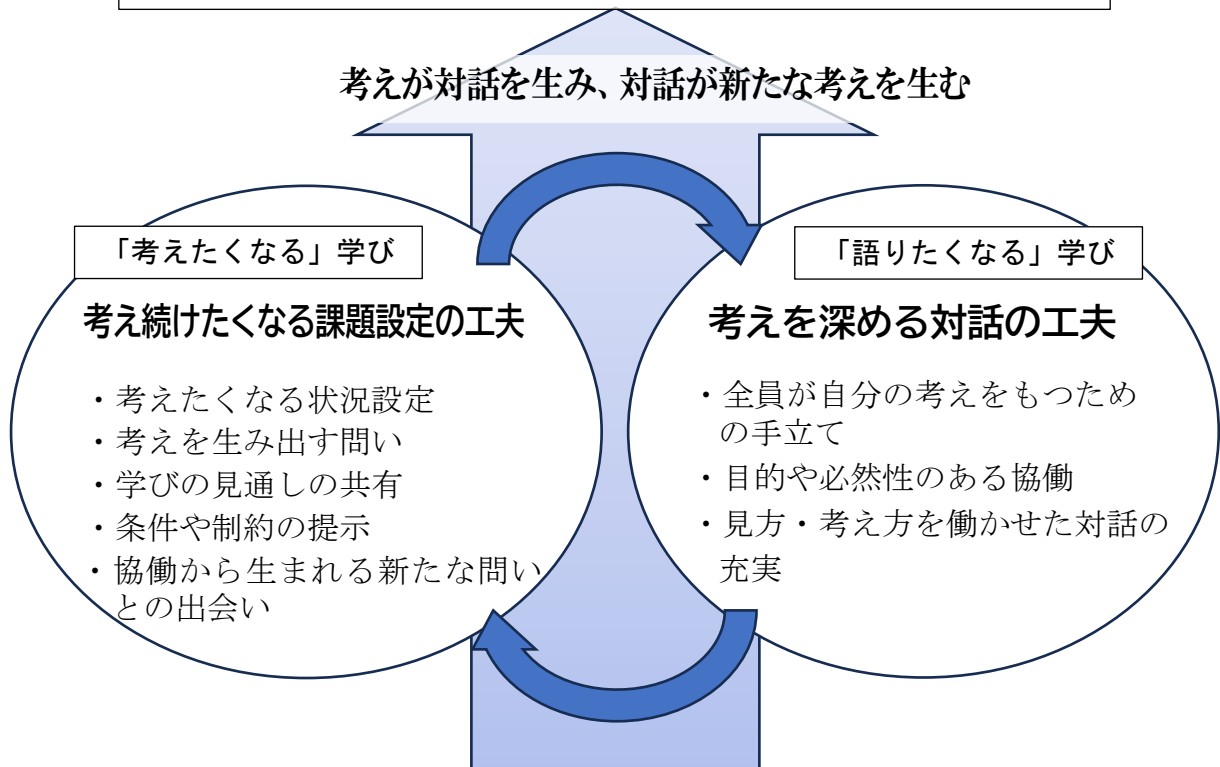
《研究構想図》

校訓 経営理念 教育目標	「仁智」「創造」「自立」 キラリと輝く学校づくり 一笑顔あふれる学校、信頼される学校を— しなやかな知性を持ち、豊かで心身たくましく、創造的で自立した生徒を育てる。
--------------------	--

研究主題「課題を自分事として捉え、考えを言葉にする生徒の育成」
～「考えたくなる」学びと「語りたくなる」学びを通して～

目指す生徒像 「自分の考えを自分の言葉で表現できる生徒」

考えが対話を生み、対話が新たな考えを生む



学びの基盤

生徒会との連携	聴き合う学級づくり	学びの自己調整
教員 × 生徒会		

(4) 実践の重点

① 考え続けたい課題設定

生徒が主体的に学びに向かうためには、学習課題との出会いが重要である。生徒の興味や既存の経験と結び付く課題や、知的好奇心を喚起する問いを設定することで、生徒が「考えたい」学びを生み出すことを目指す。

また、課題設定においては、生徒が自由に考えるだけでなく、一定の条件や制約の中で考える場面を意図的に設定することを大切にする。条件の中で自分の考えを形成しようとする過程が、より深い思考へとつながると考える。

そのため、単元を通して追究する問いを明確にし、生徒が学びの見通しを持ちながら課題に向き合うことができる授業づくりを行う。また、個人の思考と対話等の協働学習を意図的に往還させることで、新たな発見や未解決の課題を見出す仕組みを構築する。一人で考え、他者と交わり、再び一人で問い直すというプロセスを繰り返す中で、生徒が自ら次の問いを見出し、粘り強く学び続ける「深い学び」の実現を目指す。

② 対話を通して深める学び

生徒が自分の考えを深めていくためには、他者との関わりの中で考えを広げたり見直したりする学びの過程が重要である。そこで、生徒同士が互いの考えを語り合い、聴き合う場面を授業の中に意図的に位置付ける。

必然性のある協働や対話を通して、自分とは異なる考えに出会うことで生徒が自分の考えを更新し、より深く考える学びを目指す。その際、対面のグループ学習のみならず、一人一台端末を活用したチャット機能や共同編集、生成 AI との対話なども有効な手法として積極的に取り入れる。多様な対話の形を通して、思考を可視化し、多角的に吟味する場を設けることで、一人ひとりが確かな『納得解』を導き出し、自分の言葉で発信する力を育てていく。

(5) 学びの基盤づくり

① 聴きあう学級づくり

安心して自分の考えを語ることができる学級づくりを基盤とする。

生徒一人一人が認められ、互いの考えを尊重する関係を育てることで、対話的な学びが生まれる土台を形成する。

- ・生徒指導の4つの視点を生かした学級づくり
- ・日常的な対話活動の充実
- ・聴き方を意識した関わりの指導

② 生徒会との連携

教員による授業改善と生徒会による目指す授業の共有を両輪とし、生徒と教師がともに授業づくりに関わる取組を進めることで、生徒主体の学びを推進していく。

- ・4月の授業オリエンテーションで、今年度の授業で意識することを共有する
- ・生徒集会で学びの進捗状況を確認する
- ・行事と絡めた縦割り集団での傾聴の質の向上
- ・外部講師による価値づけと学期ごとのPDCAサイクルによる学びの質の向上

③ 学びの自己調整力の育成

個別思考と協働的な学びを往還させ、自己の変容を振り返るプロセスを繰り返すことで、生徒が自らの学びを客観的に捉え、調整していく力を育む。学びの循環を基盤に据えることで、常に自らの思考を更新し続ける自立した学習者の育成を目指す。

- ・条件や制約の中で、既存の知識を活用し自らの考えをもつ
- ・対話を通じ、他者の視点を取り入れることで、自らの考えを広げ、深める
- ・振り返りを通して学びの変容を自覚し、次の問いや解決策を見出す

(6) 研究の検証方法

本研究では、授業実践を通して次の観点から検証を行う。

①授業観察による生徒の学習の様子

- ・課題に主体的に向かう姿
 - 課題を「自分事」として捉え、自ら解決方法を考え始めているか。
 - 個人の思考と協働を往還する中で、自らの納得解を得たり、新たな課題を見出したりして学びを継続させているか。
- ・対話を通して考えを深める姿
 - 相手の考えを聴き、自らの考えを更新（修正・付加・深化）させているか。
 - 対面での語り合いだけでなく、デジタル端末による共同編集やAI等のツールを効果的に活用し、多角的に思考を深めているか。

②生徒の振り返りの記述

- ・考えの変容
- ・自分の言葉による表現

③授業後の教師の振り返り

- ・課題設定の有効性
- ・対話場面の充実

④各種調査・アンケートの結果

- ・学力調査の検証
- ・生徒アンケート
- ・教職員アンケート

これらを総合的に分析し、本研究の成果と課題を明らかにする。

週案では…

「考えたくなる学び」と
「語りたくなる」学びの
往還がみられた授業に
○印をつけて提出して
ください。

授業1-1	授業1-2	授業1-3	授業1-4
球まき食品と その意味		球まき食品と その意味	球まき食品と その意味
○		○	○

考えたくなる学び 語りたくなる学び



(7) 実施計画 (6月要請訪問 11月計画訪問)

	研究関係行事	校内研修会	教科部会	生徒会
4月	提案授業	① 学校研究について	① 目指す授業	授業オリエンテーション
5月		② 提案授業 ③ 要請訪問について	② 要請訪問に向けて	運動会(SF)にむけて
6月	要請訪問	④ 指導案検討 ⑤ 要請訪問授業研究		先輩に相談しよう
7月		⑥ 1学期振り返り 授業づくり訪問に向けて	③ 1学期振り返り	1学期振り返り
8月	金沢大学教員派遣研修 授業づくり訪問	⑦ 金大教員による講話 ⑧ 授業づくり訪問について 指導案構想図について 計画訪問について	④ 全国・県基礎学調分析 ⑤ 2学期に向けて ⑥ 授業づくり訪問	
9月				2学期新たに取り組むこと
10月		⑨ 計画訪問に向けて 研究授業指導案検討	⑦ 指導案検討	文化祭に向けて
11月	計画訪問	⑩ 授業整理会 など	⑧ 授業整理会	2学期中間報告
12月		⑪ 2学期振り返り 授業交流に向けて	⑨ 2学期振り返り	2学期振り返り
1月	授業交流	⑫ 授業交流週間		学年のまとめに向けて
2月		⑬ 総括		次年度に向けて
3月		⑭ 次年度に向けて	⑩ 1年振り返り	

※ 研究推進委員会は随時実施する。

※ 講師招聘や特別研修など、必要に応じて適宜実施する。

(8) 参考資料

《川中スタンダード》

～学び手中心の授業づくりのための基本モデル～

生徒が主体的に学び、自らの考えを深めていく授業を実現するため、授業の基本的な流れを「川中スタンダード」として共有する。

「川中スタンダード」は、学び手中心の授業デザインの考え方を基に、

「つかむ → ふかめる（思考・対話） → 振り返る」

という学びの循環を軸として構成している。

◆川中スタンダードが目指す学び◆

- ・ 自分事として課題を捉える (つかむ)
- ・ 他者と聴き合いながら考えを深める (ふかめる)
- ・ 学びを振り返り次へつなげる (ふりかえる)

このような学びのプロセスを通して、生徒が自らの考えを調整しながら学びを深めていく授業を目指す。こうした授業を積み重ねることで、生徒が主体的に学び続けようとする力を育成していく。

さらに、自分事となる課題設定と聴き合う学びの中に、生徒が考えを言葉にする学習活動を位置付けることで、生徒は自分の考えを自分の言葉で表現できるようになると考える。

学習段階	授業の視点	生徒の姿	授業のポイント
つかむ	自分事となる課題 学習課題を自分事として捉え、学びの見通しをもつ ・ 考えたい問の提示 ・ 条件や制約の提示 ・ 学びの見通しの共有	・ 問いを理解する ・ 自分の考えをもつ ・ 学びの見通しをもつ	・ 考えを生み出す問いになっているか ・ 考えたい状況が設定されているか ・ 学びの見通しが持てるか
ふかめる (思考・対話)	思考と対話の往還 多様な考えに触れながら、自分の考えを深める ・ 個別思考 ・ ペア交流 ・ グループ対話 ・ 生成AIの利用 ・ 共同編集など ・ 全体共有（可視化含む） ・ 納得解 ・ 新たな課題	・ 自分の考えを整理する ・ 根拠を考える ・ 傾聴を通し相手の考えを理解する ・ 考えを比較する ・ 考えを深める ・ 個別と協働の往還から納得解や新たな課題を導き出す	・ 考える時間が保証されているか ・ 根拠を明確にして考えているか ・ 対話が単なる発言交換になっていないか ・ 聴くことを大切にしたい学びになっているか ・ 協働の必然性があるか ・ 傾聴を意識した関わりがあるか
ふりかえる	学びの整理 学びを整理し、次の学びにつなげる ・ 何を学んだか ・ 考えはどう変わったか ・ どう学んだか ・ 次はどう学びたいか ・ 何を追究したいか	・ 考えの変化を言語化する ・ 学びを自覚する	・ 学びを言語化できているか ・ 学びを通して納得解を得られているか

《かわきた授業スタイル》

かわきた授業スタイル(教師の心得) 小中9年間を通して、小中学校で共通して身につけさせたいこと

川北町学校教育研究会

授業に入る前に学習環境を整える

- ・服装(シャツイン・ズックのかかとなど)
 - ・身の回りの整頓(机の中・ロッカーの中・カバンの中・教卓の周りなど)
 - ・筆箱の中身(鉛筆・消しゴム・ペン・ものさし 学習に必要な道具)下敷き
- ◎机の上の準備と整頓(学習に使うものを休み時間にそろえて机の上に置く)
- ・ベル着→ベル学へ(自分たちで学習を始める。チャイムと同時に始める)

※強制的な授業規律の確立ではなく、自発的な授業規律の確立を目指す

か 課題をつかもう

⇒課題意識を持たせる

- ・考えたくなる課題の設定 →子ども達で課題が見つけれられるようにする
- ・課題提示の工夫
- ・授業の前に課題は子どもたちが分かっている状態に(前時での予告、単元計画)
- ・どの教科でもく >で課題を明記

わ わかった・できた に向けて伝え合おう

⇒わになって学び合い、深める

- ◎話し手を見て話す 聞き手は話し手の方を向く(相手意識をもつ)
- ・誰とでも話し合える人間関係(最後まで聞く・反応しながら聞く・わかろうとしながら聞く)
- ・発見が生まれる場面、わからないを出し合う場面を大切にする
- ・問い返しや切り返しの発問を用意しておく(話し合いのコーディネート)
- ・「自分の考えを比べて聞く」「関連付けて話す」の指導

き 今日の学びをまとめよう

⇒今日の学びをまとめる

- ・課題に対応したまとめに(まとめは子どもたちの言葉で)

た 確かめよう。できるかな？

⇒大切にしたい定着とふり返し

- ・練習問題で定着を図る・活用問題でさらに発展的に
- ・家庭学習でさらに復習定着・自学の充実
- ・ふり返りの内容の充実